

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	外科的矯正治療に関する実態調査
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2017年4月1日から2018年3月31日までの間に当院で顎矯正手術を施行した患者さん
③概要	近年、顎変形症の外科的矯正治療も認知度を高め、日本国内で毎年約3000例の顎矯正手術が実施されるようになりました。特定非営利活動法人日本顎変形症学会では平成20年にわが国における顎変形症に対する実態調査を行い、その調査結果を会員にフィードバックすることにより、顎変形症治療における施設間差を解消し、顎変形症に対する医療の質と安全性を向上させ、さらには医療者と患者の相互理解に役立ててきました。前回の実態調査から10年が経過し、術前・後矯正治療にも大きな変化が現れてきました。そこで、顎変形症に対する外科的矯正治療の実態に関する詳細なデータを収集することを目的として調査を行います。
④申請番号	
⑤研究の目的・意義	顎変形症に対する外科的矯正治療の年間実施例数、術式や合併症の有無、矯正歯科医と口腔外科医との連携体制、術前・後矯正治療の期間、歯科矯正用アンカースクリューの使用などの実態に関する詳細なデータを収集するため。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日より2020年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法(他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)	診療録と手術記録から年間実施例数、術前・後矯正治療の期間、歯科矯正用アンカースクリューの使用等について日本顎変形症学会のアンケート書式により調査を行います。収集した情報からは特定の個人を識別することはできませんが、研究に用いられることを拒否したい方は以下までご連絡ください。ただし、データに組み込まれてからは特定個人のデータのみを切り離すことは不可能となることをご了承ください。
⑧利用または提供する情報の項目	診断名、手術術式、手術時間、出血量、入院期間、顎間固定期間、矯正治療内容、合併症・偶発症
⑨利用の範囲	新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科、矯正歯科 特定非営利活動法人日本顎変形症学会 (http://gakuhenk.umin.jp)
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科組織再建口腔外科学分野 教授 小林正治 東北大学大学院歯学研究科顎顔面・口腔外科学分野 教授 高橋 哲
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科組織再建口腔外科学分野 准教授 片桐 渉 Tel : 025-227-2877 E-mail : w-kat@dent.niigta-u.ac.jp